



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

2009年10月 2日  
MR/J27/09

メディア用原稿  
非公式記録

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811  
Fax: 03-3499-2828  
E-mail: [media@unu.edu](mailto:media@unu.edu)  
Website: <http://www.unu.edu/>

## 国連大学、生物多様性国際シンポジウムを協賛

イベント： 生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10）1年前シンポジウム  
テーマ： 「生物多様性ポスト2010年目標とアジアビジョン」  
開催日： 2009年10月10日（土） 午前10時～午後5時30分  
場所： 国連大学本部（渋谷区）  
主催： 国際自然保護連合 日本委員会（IUCN-J）  
共催： 日本自然保護協会、WWF ジャパン、日本野鳥の会、日本経団連自然保護協議会、  
生物多様性 JAPAN、コンサベーションインターナショナルジャパン、  
バードライフアジア  
協賛： 国連大学（UNU）  
後援： 外務省、環境省、生物多様性条約市民ネットワーク

- 生物多様性は、自然生態系の維持と安定だけでなく、水や空気の浄化、炭素隔離、廃棄物の分解と無毒化、有害生物や疾病対策など、我々すべてに恩恵をもたらす環境プロセスを支えている。
- 今日、生物多様性は人間の活動によって壊滅的打撃を受けており、生物生息域の破壊と環境悪化が進んでいる。生物多様性の損失が生む弊害は、我々の生活にも影響を及ぼすが、特に打撃を受けるのは、地域の生態系がもたらすサービスに最も直接的に依存している辺境地域の貧困層である。
- 2002年には、生物多様性条約第6回締約国会議において、生物多様性の損失速度を大きく低減させることを目標とした戦略計画が採択された。この目標はその後、持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）および国連総会において承認され、ミレニアム開発目標（MDGs）に組み込まれた（ターゲット7-B）。
- 2010年10月に名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10）では、生物多様性2010年目標の達成進捗を確認するとともに、生物多様性に関する「ポスト2010年目標」を提案する。本シンポジウムは、地球環境基金、経団連自然保護基金の助成を受けて開催され、1年後のCBD-COP10に向けた準備会合と位置付けられる。
- 本シンポジウムは、吉田正人IUCN-J会長、田島一成環境副大臣、ゴヴィンダン・パライル教授（国連大学高等研究所所長兼国連大学副学長）による開会の挨拶で幕を開ける。続いて、アーメッド・ジョグラフィCBD事務局長、ジェフリー・マクニーリIUCN上席科学顧問、渡辺綱男氏（環境省大臣官房審議官）、武内和彦教授（国連大学サステイナビリティと平和研究所所長兼国連大学副学長）による基調講演が行われる。
- 午後に開催される2つのセッション（発表およびパネルディスカッション）では、『さまざまなセクターから見たポスト2010年目標のあり方（生物多様性の主流化）』（午後1時）、および『ポスト2010年目標の実施のあり方』（午後3時30分）をテーマに取り上げる。総括（午後5時）では、本シンポジウムの共同議長を務める吉田氏とマクニーリ博士が閉会の辞を述べる。
- 日英の同時通訳あり。本シンポジウムのプログラムは、以下ウェブサイトでご覧可能（日本語のみ）。（<http://www.iucn.jp/event/pdf/flyer2009.10.10.pdf>）

本シンポジウムの詳細、参加者へのインタビューのご依頼および出席については、以下担当者までご連絡ください。

国連大学高等研究所（UNU-IAS）担当：中尾 電話：045-221-2300、Eメール：[nakao@ias.unu.edu](mailto:nakao@ias.unu.edu)

\* 生物多様性の分野における国連大学の取り組みには、UNU-IASによる次の3つのプログラムが含まれる。2005年ミレニアム生態系評価（MA）に大きく寄与したバイオディプロマシー イニシアチブ、MAサブグローバルフォローアップ事務局としての役割を果たす生態系サービス評価（ESA）、および国際規模で人間と自然の良好な関係構築を目指す SATOYAMA イニシアチブ。

MEDIA ADVISORY